

会長挨拶

「痛みを視て患者を診る」

萬家 俊博

愛媛大学大学院医学系研究科
麻酔・周術期学講座 教授



この度、一般社団法人日本ペインクリニック学会第1回中国・四国支部学術集会の会長を仰せつかった愛媛大学大学院医学系研究科麻酔・周術期学講座の萬家俊博でございます。日本ペインクリニック学会が支部化への移行が完了して最初の第1回学術集会となります。その記念すべき学術集会を中国・四国支部の会員の皆様を中心として、松山市において多数の会員が対面して、学びや討議ができれば良かったのですが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響のため、WEBによる開催形式をとることとしました。

学術集会の企画としては、特別講演1演題、教育講演1演題、一般演題を予定しています。

特別講演には、愛媛大学大学院医学系研究科分子病態医学講座教授の今村健志先生による「革新的バイオイメージング技術が拓く次世代ペインクリニック」を、教育講演には、白石病院（愛媛県今治市）脊椎外科の鴨川淳二先生による「3D画像による腰痛の可視化 ～硬膜外・神経根ブロックの前に確認しておきたい病理～」を企画しました。どちらの先生も私が懇意にしている先生で、比較的早い準備段階からこの講演を御願いました。この段階で、私の心に浮かんだ学術集会のテーマは、「痛みを視て患者を診る」というものでした。ペインクリニック診療、特に慢性痛に関しては、画像診断で痛みの原因を明らかにすることができない症例が多くあり、会員の皆様も痛みの原因やメカニズムを可視化したいという願望があまりにあると思います。両先生のご講演によって、「痛みを可視化できて、痛みの研究や患者への診療が発展する」という時代が来ることをイメージできることを期待しています。

この2つの講演は、画像を中心テーマにしていますので、WEB オンデマンド配信では講演内容が伝わりにくいと考え、リアルタイムWEB配信で行うことにしました。また、一般演題は、日本ペインクリニック学会HP上でのWEB オンデマンド配信で行い、2つの配信方法で企画しています。

多くの会員の皆様の一般演題投稿と学術集会へのご参加をお待ち申し上げます。